

ITU-T SG15 会合 (9/28-10/9) WP2 提出寄書

資料 2-伝-2-SG15-WP2-Q5-寄概-NTT (1)	G.650.1、Appendix II の改訂提案
資料 2-伝-2-SG15-WP2-Q5-寄概-NTT (2)	新規補充文書 G.Sup.gafc に関するレスポ ンデンスサマリー
資料 2-伝-2-SG15-WP2-Q5-寄概-SBTM (1)	ファイバマクロベンディングの検出方法提案
資料 2-伝-2-SG15-WP2-Q5-寄概-線材協会 (1)	G.652、G.655 の改訂に関する提案
資料 2-伝-2-SG15-WP2-Q6-寄概-NTT (1)	100G アプリケーションコードに対する勧告 G.696.1 改訂提案
資料 2-伝-2-SG15-WP2-Q7-寄概-NTT (1)	G.671 における PON 用光スプリッタ仕様の 提案
資料 2-伝-2-SG15-WP2-Q7-寄概-NTT (2)	高速大容量 WDM システムのための高度変 調方式における光部品の議論の提案
資料 2-伝-2-SG15-WP2-Q8-寄概-CIAJ (1)	COTDR パラメータの定義
資料 2-伝-2-SG15-WP2-Q8-寄概-NTT (1)	改訂勧告 G.971、Appendix I の修正提案
資料 2-伝-2-SG15-WP2-Q8-寄概-NTT (2)	勧告 G.976 新規 Appendix のドラフト案

資料 2-伝-2-SG15-WP2-Q5-寄概-NTT (1)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式4)

ITU-T 会合への提出寄書概要
(会合名：ITU-T SG15 第2回会合)

提出元：日本電信電話株式会社
(原案作成元) (注)

(注) 原案作成元と提出元が異なる場合は、原案作成元を括弧書きで併せて記載すること。

寄 書 名	原 題	Proposal on modification of Appendix II of Rec. G.650.1		
	和 訳	G.650.1、Appendix IIの改訂提案		
開催期間		2009年9月28日～2009年10月9日	開催地	スイス、ジュネーブ
課題番号	課題名	光ファイバ及びケーブルの特性と試験方法		
Q5				
<p>提出寄書の意図・目的： <input checked="" type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>既存勧告G.650.1（光ファイバケーブルの線形パラメータの試験法）、Appendix IIIに記載の均一性評価法に関し、測定手順の最新化を行うことを提案する。</p>				
<p>寄書の内容：</p> <p>比屈折率差の分布特性の評価法について紹介し、G.650.1、Appendix IIIに記載の試験手順を更新することを提案する。</p>				
<p>勧告に対する外国の状況：</p> <p>特に無し</p>				
<p>他のSG、他の機関との関連：</p> <p>光ファイバケーブルの特性と試験法に関しては、Q.8、Q.16、及びIECと、光伝送システムに関しては、G.6及びQ.7と関連している。</p>				

(注) 寄書原文を提出すること。

資料 2-伝-2-SG15-WP2-Q5-寄概-NTT (2)

(情報通信技術分科会 ITU-T 部会 委員会 様式 4)

ITU-T 会合への提出寄書概要
(会合名: ITU-T SG15 第2回会合)

提出元: NTT

寄 書 名	原 題	Summary of correspondence activity on new supplement G.Sup.gafc		
	和 訳	新規補充文書 G.Sup.gafc に関するコレスポンドンスサマリー		
開催期間		2009 年 9 月 28 日～2009 年 10 月 9 日	開催地	スイス・ジュネーブ
課題番号	課題名	光ファイバとケーブルの特性と試験法		
Q5				
<p>提出寄書の意図・目的: <input type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input checked="" type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>主に既存 G.65x ファイバケーブルのアップグレード時において有用となる、実使用環境に依存した光ファイバ及びケーブルの諸特性について取り纏めた新規補充文書の作成を NTT より提案し、前会合まで議論を進めてきた。</p> <p>本寄書では、前会合で提案したドラフト案 (C67、NTT) をベースに実施したコレスポンドンスの審議結果を報告するとともに、審議結果に基づく最終ドラフト案を提示し、今会合における本新規補充文書作成の合意を目指す。</p>				
<p>寄書の内容:</p> <p>新規補充文書の作成に関するコレスポンドンスでの審議結果の報告とドラフト案の提案</p>				
<p>勧告に対する外国の状況:</p> <p>これまでのコレスポンドンスにおいて Corning (米)、OFS (米)、並びに Draka-Comteq (オランダ) より賛意が示されている。</p>				
<p>他の SG、他の機関との関連:</p> <p>光ファイバとケーブルの特性及び試験法に関しては、Q.8、Q.16、並びに IEC と、光通信システムに関しては、Q.6 及び Q.7 と関連している。</p>				

(注) 寄書原文を提出すること。

資料 2-伝-2-SG15-WP2-Q5-寄概-SBTM(1)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式4)

ITU-T 会合への提出寄書概要

(会合名: ITU-T SG15 第2回会合)

提出元: ソフトバンクテレコム(株)

(原案作成元) (注)

(注) 原案作成元と提出元が異なる場合は、原案作成元を括弧書きで併せて記載すること。

寄書名	原題	Proposal of fibre macrobending identification method		
	和訳	ファイバマクロベンディングの検出方法提案		
開催期間		2009年 9月28日～2009年10月 9日	開催地	スイス、ジュネーブ
課題番号	課題名	光ファイバ及び光ケーブルの特性と試験方法		
5				
<p>提出寄書の意図・目的: <input type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>勧告G.650.3(敷設されたシングルモード光ファイバケーブルリンクに用いる試験法)では、敷設工事後の光ファイバケーブルの評価試験、およびダークファイバ貸し等を想定し、事業者間のSLAに利用することを想定した光ケーブル評価試験に適用可能な測定法が規定されている。</p> <p>本寄書では、主にクロージャー内で発生するマクロベンディングの発生箇所を特定するための測定法を提案し、勧告G.650.3の次回改訂時に盛り込むことを提案する。</p>				
<p>寄書の内容:</p> <p>現状の勧告に記載されている通常のOTDR法を用いた場合、光ケーブルを接続するクロージャー内において高い損失値が観測された場合に、これが高い融着損失によるものか、あるいはマクロベンディングによるものかについて、直ちに判断することは困難である。</p> <p>そこで本寄書では、2波長のOTDRトレースを解析することにより、容易にマクロベンディングの発生箇所を特定する測定法を提案している。</p>				
<p>勧告に対する外国の状況:</p> <p>特になし。</p>				
<p>他のSG、他の機関との関連:</p> <p>Q17/15(光ファイバケーブルネットワークの保守・運用)に関連している。</p>				

(注) 寄書原文を提出すること。

資料 2-伝-2-SG15-WP2-Q5-寄概-線材協会(1)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式4)

ITU-T会合への提出寄書概要

(会合名: ITU-T SG15 第2回会合)

提出元: 線材協会、日本電信電話株式会社
(原案作成元) (注)

(注) 原案作成元と提出元が異なる場合は、原案作成元を括弧書きで併せて記載すること。

寄書名	原題	Proposals on revision of Recommendations G.652 and G.655.		
	和訳	G.652、G.655の改訂に関する提案		
開催期間		2009年9月28日～2009年10月9日	開催地	スイス、ジュネーブ
課題番号	課題名	光ファイバ及びケーブルの特性と試験方法		
Q5				
<p>提出寄書の意図・目的: <input type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>既存勧告G.652 (シングルモードファイバ) 及びG.655 (非零分散シフトファイバ) の改訂に関し、 伝送損失規定の記述の明確化を行うことを提案する。</p>				
<p>寄書の内容:</p> <p>G.652について前会合で中国から、カテゴリC及びDで水素処理後の伝送損失規定の記述の修正が提案されたことを受けて、具体的な記述の内容を提案する。</p> <p>G.652及びG.655について前会合で米国から、伝送損失及び偏波分散の規定は短いケーブルには適用されない旨をScopeに追記する提案がなされたのに対して、Scopeは変更せずに本文の中で短尺ケーブルに関するNoteを追加することを提案する。</p>				
<p>勧告に対する外国の状況:</p> <p>G.652の水素処理後の伝送損失規定の記述提案については、中国はじめ各国の賛意が得られるものと予想される。G.652、G.655の短尺ケーブルの伝送損失規定に関するNoteの追加提案について現時点での米国の反応は不明</p>				
<p>他のSG、他の機関との関連:</p> <p>光ファイバケーブルの特性に関しては、Q8、Q16及びIECと、光伝送システムに関しては、Q6、Q7と関連している。</p>				

(注) 寄書原文を提出すること。

資料 2-伝-2-SG15-WP2-Q6-寄概-NTT (1)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式4)

ITU-T会合への提出寄書概要
(会合名：ITU-T SG15第2回会合)

提出元：日本電信電話株式会社
(原案作成元) (注)

(注) 原案作成元と提出元が異なる場合は、原案作成元を括弧書きで併せて記載すること。

寄書名	原題	Proposal for a revision of Recommendation G.696.1 for 100G application code		
	和訳	100Gアプリケーションコードに対する勧告G.696.1改訂提案		
開催期間		2009年9月28日～2009年10月9日	開催地	スイス、ジュネーブ
課題番号	課題名	陸上伝達網における光システムの特性		
Q6				
<p>提出寄書の意図・目的：<input type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>前会合にて、G.696.1（ドメイン内DWDMアプリケーション）に100Gアプリケーションコードを追加することを提案し合意された。100Gシリアル伝送方式の議論が国内外で活性化するなか、今会合では100G伝送技術に関する課題を述べ、具体的な記載内容に関する議論を開始する提案を行い、100G技術を先導していく。今後、今会期中でのコンセンストを目指す。</p>				
<p>寄書の内容： 100Gシリアル伝送の光雑音耐力、偏波分散耐力などに言及し、100G伝送技術を勧告にどう反映させていくかの議論を開始する提案を行う。</p>				
<p>勧告に対する外国の状況： 他のキャリアとの連携を図る。</p>				
<p>他のSG、他の機関との関連：OIF等</p>				

(注) 寄書原文を提出すること。

資料 2-伝-2-SG15-WP2-Q7-寄概-NTT (1)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式4)

ITU-T 会合への提出寄書概要
(会合名: ITU-T SG15 第2回会合)

提出元: 日本電信電話株式会社
(原案作成元) (注)

(注) 原案作成元と提出元が異なる場合は、原案作成元を括弧書きで併せて記載すること。

寄書名	原題	Proposal for PON splitter specifications in G.671		
	和訳	G.671におけるPON用光スプリッタ仕様の提案		
開催期間		2009年9月28日～2009年10月9日	開催地	スイス、ジュネーブ
課題番号	課題名	光部品及びサブシステムの特性		
Q7				
<p>提出寄書の意図・目的: <input type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>勧告G.671 (光部品及びサブシステムの伝送特性) が前会合で改訂されたことから、PON用スプリッタ仕様のNTT提案のアップデートを行う。</p>				
<p>寄書の内容:</p> <p>前会合で合意され、その後AAPで承認された改訂勧告G.671の修正点を踏まえ、現行勧告におけるWR1及びWR2の両波長帯を支持する提案を行う。</p>				
<p>勧告に対する外国の状況:</p> <p>特に無し</p>				
<p>他のSG、他の機関との関連:</p> <p>IEC SC86Bは光受動部品、光収納用品の光学的特性・耐環境特性などを検討しており、本課題と密接に関連する</p>				

(注) 寄書原文を提出すること。

資料 2-伝-2-SG15-WP2-Q7-寄概-NTT (2)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式4)

ITU-T 会合への提出寄書概要
(会合名：ITU-T SG15 第2回会合)

提出元：NTT
(原案作成元) (注)

(注) 原案作成元と提出元が異なる場合は、原案作成元を括弧書きで併せて記載すること。

寄書名	原題	Proposal to promote discussions on optical components for advanced modulation/demodulation schemes used for high-speed large-capacity WDM		
	和訳	高速大容量WDMシステムのための高度変調方式における光部品の議論の提案		
開催期間		2009年9月28日～2009年10月9日	開催地	Geneva
課題番号	課題名	光部品、サブシステムの特性		
Q7		Characteristics of optical components and subsystems		
<p>提出寄書の意図・目的：<input checked="" type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>近年のネットワーク大容量化のために、従来の強度変調・直接検波方式に加えて40Gb/sや100Gb/s級の高速信号伝送を可能とする種々の新たな変復調方式が実用化されつつある。本寄書提案はQ7/WP2において、今後重要となる光変復調方式に対応した光部品特性についての議論を促進、先導することを目的とする。</p>				
<p>寄書の内容：</p> <p>光信号の位相や偏波を利用するDifferential Phase Shift Keying、Dual polarization Quadrature Phase Shift Keyinといった変復調方式に必要な光部品の例としてレーザ光源、偏波多重分離器等を示し、これら光部品の特性記述についての議論を行い、文書化することを提案する。</p>				
勧告に対する外国の状況：なし				
他のSG、他の機関との関連：IEC等				

(注) 寄書原文を提出すること。

資料 2-伝-2-SG15-WP3-Q8-寄概-CIAJ (1)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式4)

ITU-T会合への提出寄書概要
(会合名:ITU-T SG15 第2回会合)

提出元:情報通信ネットワーク産業協会
ITU-T 共同加盟小委員会
(アンリツ株式会社)

寄書名	原題	Definition of COTDR parameters		
	和訳	COTDRパラメータの定義		
開催期間		2009年9月28日～10月9日	開催地	スイス・ジュネーブ
課題番号	課題名	Characteristics of optical fibre submarine cable systems		
8				
<p>提出寄書の意図・目的: <input type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>G.977 光増幅中継海底で、COTDRのパラメータを追加する議論が行われているが、追加検討されているパラメータを、既存COTDR規格と整合するように見直すことで実態と規格の整合をとる。</p>				
<p>寄書の内容:</p> <p>G.977 光増幅中継海底で、COTDRのパラメータを追加する議論が行われているが、追加検討しているパラメータが、現在利用できるCOTDR(Anritsu MW90010A, ADVANTEST Q8492 製造中止)のパラメータリスト、パラメータバリューを反映していないので、製品規格と整合のとれた適切なパラメータに見直す提案を行う。</p>				
勧告に対する外国の状況:なし				
他のSG、他の機関との関連:なし				

(注)寄書原文を提出すること。

資料 2-伝-2-SG15-WP2-Q8-寄概-NTT (1)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式 4)

ITU-T 会合への提出寄書概要
(会合名 : ITU-T SG15 第2回会合)

提出元 : 日本電信電話株式会社
(原案作成元) (注)

(注) 原案作成元と提出元が異なる場合は、原案作成元を括弧書きで併せて記載すること。

寄 書 名	原 題	Proposal on modification of Appendix I of Rec. G.971		
	和 訳	改訂勧告G.971、Appendix Iの修正提案		
開催期間		2009年9月28日～2009年10月9日	開催地	スイス、ジュネーブ
課題番号	課題名	光ファイバ海底ケーブルシステムの特徴		
Q8				
<p>提出寄書の意図・目的 : <input type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>勧告G.971 (光海底システムの一般事項) における記述の詳細化を目的とし、Appendix IIに記載の敷設船、並びに敷設装置に関する、一般的な用語解説の追記を提案する。</p>				
<p>寄書の内容 :</p> <p>敷設船、並びに敷設装置に関する解説文を提案する。</p>				
<p>勧告に対する外国の状況 :</p> <p>特に無し</p>				
<p>他のSG、他の機関との関連 :</p> <p>光ファイバケーブルの特徴と試験法に関しては、Q.5、Q.16、及びIECと、光伝送システムに関しては、G.6及びQ.7と関連している。</p>				

(注) 寄書原文を提出すること。

資料 2-伝-2-SG15-WP2-Q8-寄概-NTT (2)

(情報通信技術分科会 ITU-T部会 委員会 様式4)

ITU-T 会合への提出寄書概要
(会合名：ITU-T SG15 第2回会合)

提出元：日本電信電話株式会社
(原案作成元) (注)

(注) 原案作成元と提出元が異なる場合は、原案作成元を括弧書きで併せて記載すること。

寄 書 名	原 題	Proposed draft text for new appendix of Rec. G.976		
	和 訳	勧告G.976新規Appendixのドラフト案		
開催期間		2009年9月28日～2009年10月9日	開催地	スイス、ジュネーブ
課題番号	課題名	光ファイバ海底ケーブルシステムの特徴		
Q8				
<p>提出寄書の意図・目的：<input type="checkbox"/>A:問題提起のための寄書 <input type="checkbox"/>B:新規勧告草案提示の寄書 <input checked="" type="checkbox"/>C:既存勧告案に対する審議進捗のための寄書</p> <p>前会合での合意に基づき、既存勧告G.976（光海底システムの試験法）のAppendixに追加する、ラマン利得分布試験法のドラフト案を提案する。</p>				
<p>寄書の内容： 光海底ケーブルのラマン利得分布の試験法、並びに試験手順に関する新規Appendixのドラフトを提案する。</p>				
<p>勧告に対する外国の状況： 特に無し</p>				
<p>他のSG、他の機関との関連： 光ファイバケーブルの特徴と試験法に関しては、Q.5、Q.16、及びIECと、光伝送システムに関しては、G.6及びQ.7と関連している。</p>				

(注) 寄書原文を提出すること。